

千歳市休日夜間急病センター開設から1年が経過しました

区分	診療日数	受診者数	1日平均受診者数
平日	246日	3,104人	13人/日
土曜日	47日	1,963人	42人/日
日・祝日・年末年始	72日	5,636人	78人/日
合計	365日	10,703人	29人/日

「日」… 開所時間から翌朝7時まで。

千歳市休日夜間急病センター《ささえーる》が開設した、平成29年9月5日から30年9月4日までの1年間の受診者総数は、累計1万703人。1日の開設時の平均受診者数は29人になります。その大半は千歳市民ですが、ほかにも市外居住者や道外に居住する方で出張中の方、旅行者の受診もあります。

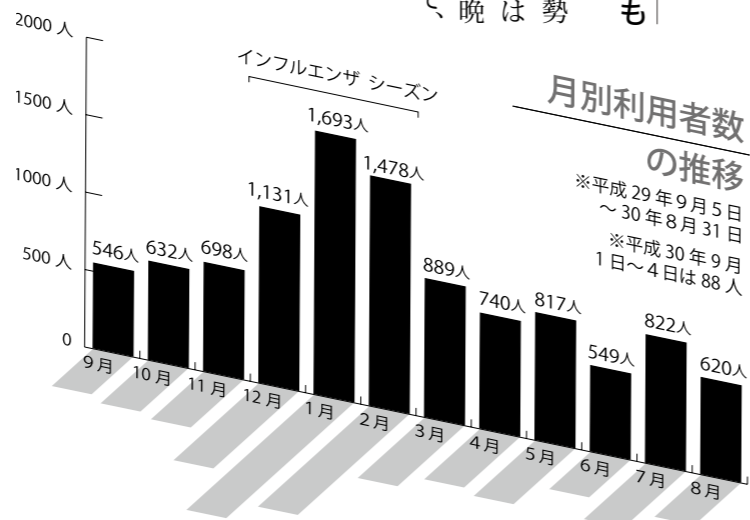
ささえーるの受診状況

インフルエンザの方が多く1日に200人を超える日も

1000人を優に超える勢いです。最も多かったのは2月の連休（2月12日の晩から翌13日の朝まで）で、225人の方が受診。また、連休が長期間となる年末年始も、連日100人を超える受診がありました。

受診の理由は、感冒、上気道炎（咽頭炎・扁桃炎）、インフルエンザなどの症状の方が最も多く、そのほかにも胃腸炎や気管支炎、肺炎、じんましん、気管支喘息の方も多い状況でした。

ささえーるは、初期（一次）救急医療機関ですので、より専門的な検査・治療や入院・手術が必要と判断されるときは、二次救急医療機関に転送されます。この1年間に二次救急医療機関に転送された方は444人。全体の約4%を占めています。



診療内容の理解 救急医療機関としての役割

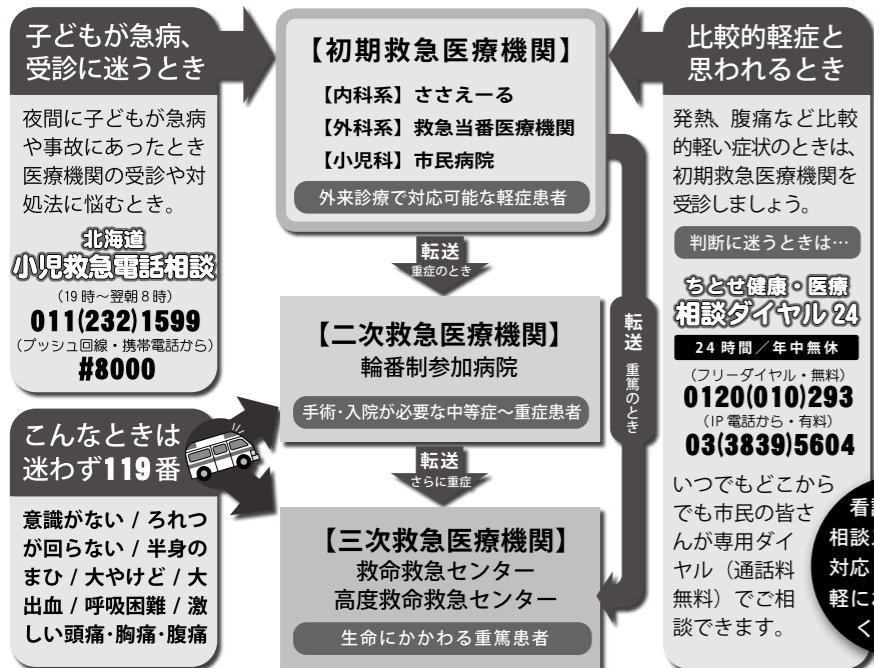
ささえーるは、市・直営の医療機関ですが、休日や夜間の突発的な発熱や腹痛などの急病者に対し応急の診療を行う内科系の《初期救急医療機関》です。平日の病院の通常診療と同じ感覚で利用される方もいました。

特集 ささえーるのリフレクション 《振り返り》

開設から1年が経過しました

長い期間、市の課題であった、内科系初期（一次）救急医療体制の空白時間を解消するため、昨年9月に開設した《休日夜間急病センター》。すでに、内科系の医療機関が窓口を閉ざすすべての曜日・時間に対応する施設として市民生活に欠かせない存在となっています。今の特集では、「サポート（支える）」「セーフ（安全）」「エール（応援）」という市民の願いを込め《ささえーる》という愛称が付けられた施設の1年間の振り返ります。

救急医療機関には役割分担があります



《ささえーるの診療内容》

- 検査や治療は応急的なものに限られます。
- 薬の処方 は基本的に1日分のみとなります。
- 継続した治療が必要なときは、翌日以降にかりつけ医や専門の医療機関を受診していただきます。
- 小児科救急は、平日と日曜日に市民病院が小児科

医師による診療を行っています。それ以外は、内科系初期救急として、ささえーるでも診療を行っています。

● 外科系（外傷や打撲、骨折など）は、市内の医療機関が当番制で診療を行っています。

看護師など相談スタッフが対応します。気軽にお電話してください。

※市民病院の小児科救急対応は、平日が18時～21時（受付17時30分～20時30分）、日曜日が9時～（受付8時30分～11時）です。



看護師 アドバイス



千歳市休日夜間急病センター
看護係長
鈴木 幹子
Suzuki Mikiko

一 来からの季節はインフルエンザウイルスが猛威をふるうシーズンです。今年も年末年始や連休期間に混雑が予想されます。別の症状で受診した方が病院で感染してしまう事例もあります。インフルエンザウイルスに感染すると、1～3日間ほどの潜伏期間の後に、発熱(通常38℃以上の高熱)、頭痛、全身の倦怠感、筋肉痛・関節痛などが突然現われ、咳、鼻汁などの上気道炎症症状が続きます。症状がでた後すぐにインフルエンザ検査を受けた場合、体内で増殖したウイルスの数が少なく、インフルエンザにかかっているのに陰性の結果になる場合があります。「インフルエンザかも?」と思ったら、症状がでた時間から12時間以上経過したタイミングで受診することをおすすめします。また、あらかじめインフルエンザ予防接種を行うほか、うがいや手洗い、人混みを避けるなどの日常的な予防に努めましょう。せつかくの連休や年越しを病院で過ごすことがないよう日ごろからの心がけを。



初期救急だから求められる
画像づくりの正確性。

診療放射線技師 天野 謙一
Amano Kenichi
昭和46年～平成21年まで市民病院で勤務

長く勤めた市民病院で、二次救急での重症患者の画像撮影も行ってきまして、ここでは特別な作業を行っているという感覚はございません。しかし、ささえーるでは《初期救急》だからこそ、症状把握の正確性が求められます。医師が「二次・三次救急への患者転送が必要かどうか」などを、早く、正しく判断するため、こ

この画像づくりの役割は、とても大切なものだと思います。ささえーるの診療放射線技師は私を含めて5人。それぞれが異なる病院で経験を積んできた熟練者です。最初は調整ことが難しいかなと思いましたが、開設後間もなく心地よい連携がとれるようになりました。皆が責任感を持って、患者さん一人一人の症状の原因究明と、適切な処置による回復を願いながら作業に取り組んでいます。

「ささえーるが」開いてくれているので本当に助かる」という患者さんの声を聞きます。命を支える役割の一端を担っていることを深く実感しています。

軽症と思われる中に潜む重症患者
守る術はスタッフの連携



千歳市休日夜間急病センター
センター長 田中 長利
Tanaka Nagatoshi

見極めの難しさが多分にあります。そのため、看護師や放射線技師の皆さんなどと十分な連携を図り、スタッフ全員が一丸となって診療にあたるよう心がけているところなんです。今後、一人一人の《急病になった時の不安な気持ち》に寄り添いながら、市民の皆さんが安心して利用し、頼りにしてもらえる施設を目指し、最善の救急医療を提供してまいります。市民の皆さまにおかれましては、今後も引き続き、内科系の《初期救急医療機関》としての特性をご理解いただき、安定的な運営を継続していくために、ご協力いただきますようお願いいたします。

救急医療・ささえーるに関する
【詳細】

千歳市休日夜間急病センター
(保健福祉部 救急医療課)
☎(25)6131 ☎(25)6171
yakankyubyo@city.chitose.lg.jp

1年を振り返って

ここでは、開設時期からささえーるに携わってきた皆さんにお話を聞きました。



薬剤師 末村 恭子
Suemura Kyouko
薬剤師としての職歴は32年
民間病院(院内薬局)での経験も豊富

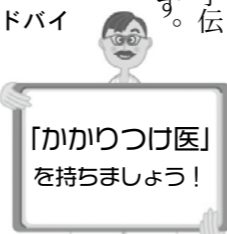
毎日が初診、その日しか来ない人
一般病院とは異なる難しさ。



医師の処方内容の適正さのチェックも薬剤師の役割。初めての患者の処方に対し、豊富な経験則が求められる。

入院患者さんやかかりつけの患者さんが来る病院とは違います。毎日が初診の方、そのときしか接することのない方です。一般の病院では、カルテの情報も豊富ですし、再来の方であれば薬の処方の変化も覚えていきます。そうした情報が得られないのが救急医療の難しいところなんです。薬の説明をするのにも、「この人は、こんな不安を抱えているんだ」など、知る人だからできる《適切な説明の仕方》があるものです。ここでは、アレルギーや解熱、痛み止めなどの即効

《かかりつけ医》とは、病気がなったときの初期の医療や、日ごろの健康に不安を感じたときに相談できる身近な病院・診療所の医師のことです。体の不調を感じたときは、なじみのかかりつけ医に、早めに相談し、適切なアドバイスを受けましょう。必要ときには、より適切な病院も紹介してもらえます。



FRQ 患者さんからよくある質問

01 24時間、開設していないのはなぜですか?

■ ささえーるは、急病の患者さんに対し、休日や夜間の応急的な診療を行う医療機関として運営しています。市内医療機関が診療を行っている時間帯(平日の日中や土曜日の午前中)は、治療の継続の観点からも、通常の医療機関(かかりつけ医)で受診してください。

02 仕事が忙しいので、ささえーるで一般受診したいのですが...

■ 日中から症状があるときは、一般の医療機関を通常の診療時間内に受診しましょう。「平日は休めない」「昼間は病院・診療所が混んでいる」などの理由で利用すると、救急外来が混み合い、緊急性の高い患者さんの治療に支障をきたすおそれがあります。

03 救急医療機関を受診すると医療費は割高になるって本当ですか?

■ 救急医療機関を受診するときは、外科系、内科系の別にかかわらず、通常の診察料に時間外・深夜・休日診療の料金が加算されますので、一般の医療機関を診療時間内に受診するよりも、診察料が高くなります。

【ささえーるで受診した場合の計算例】

- ① 通常の初診料 ... 282 点
 - ② 時間外加算 ... 230 点
 - ③ 休日加算 ... 250 点
 - ④ 深夜(22時以降)加算 ... 480 点
- 診療報酬は1点あたり10円ですので、深夜に受診すると(①+④)×10円=7,620円
医療費が3割負担の方は、自己負担額は2,290円。通常の診療時間内と比べて、自己負担額は1,440円の増額となります。

